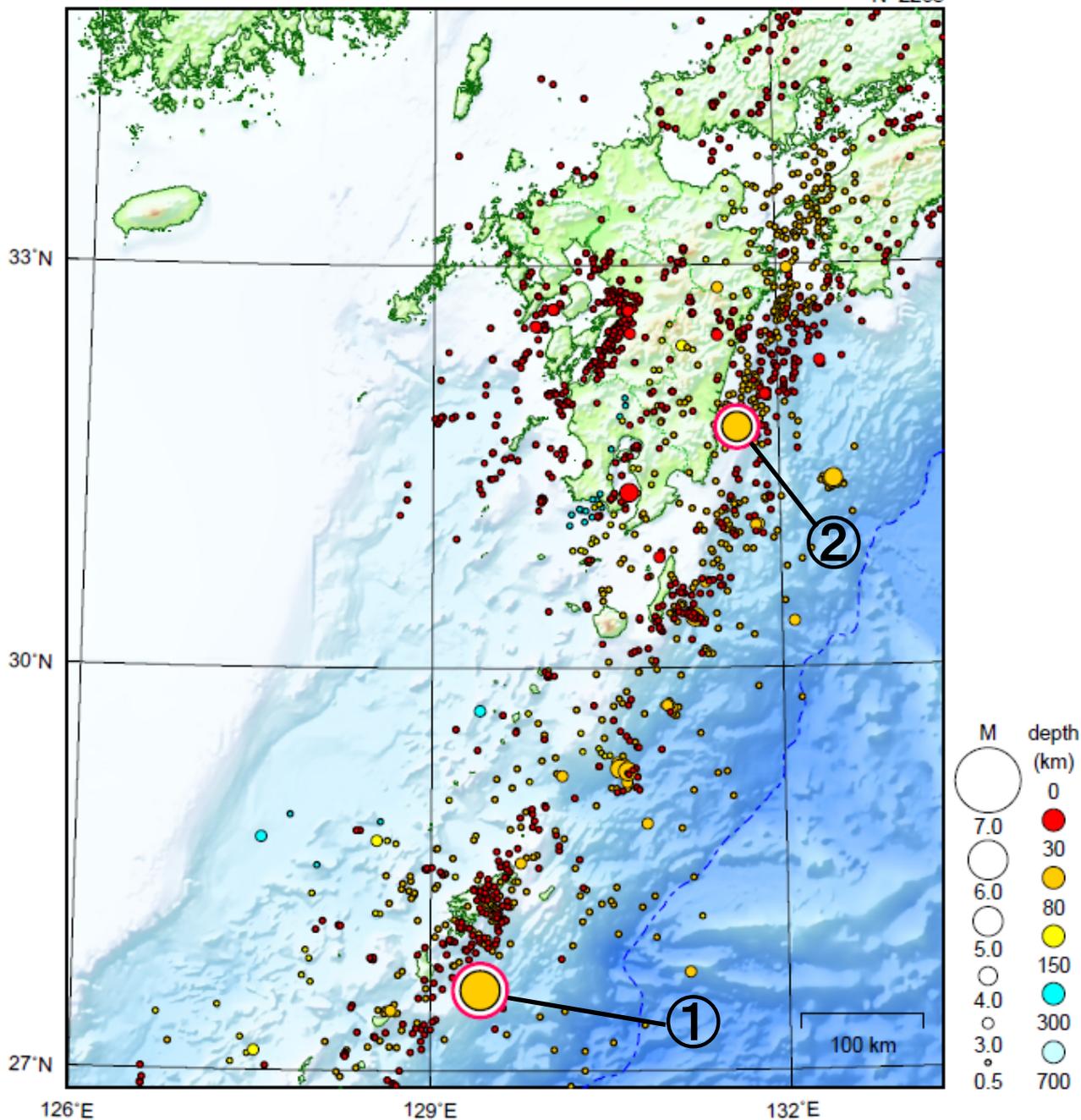


九州地方

2022/12/01 00:00 ~ 2022/12/31 24:00

N=2265



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターのETOPO2v2を使用

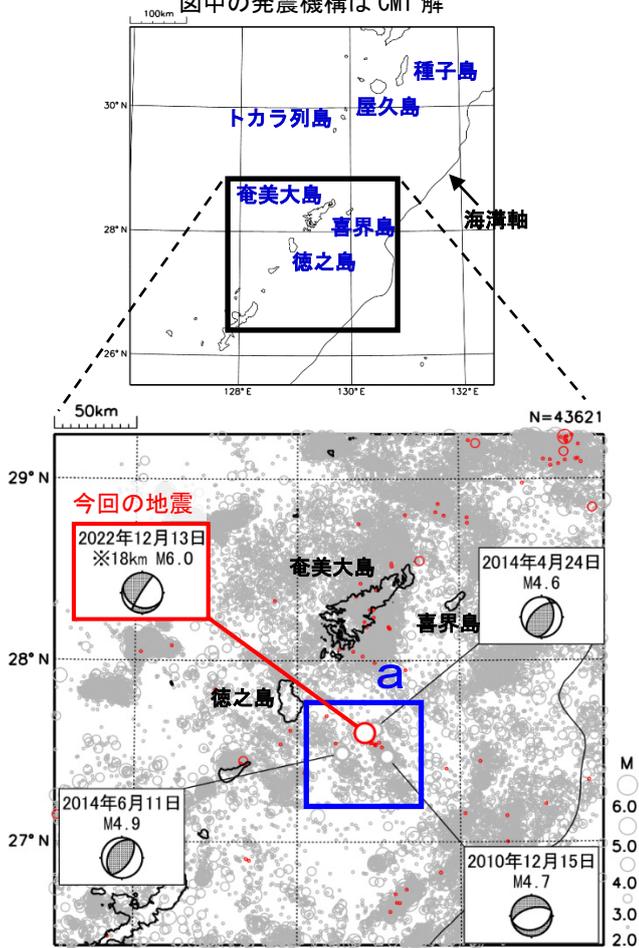
- ① 12月13日に奄美大島近海でM6.0の地震（最大震度4）が発生した。
- ② 12月18日に日向灘でM5.4の地震（最大震度4）が発生した。

[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

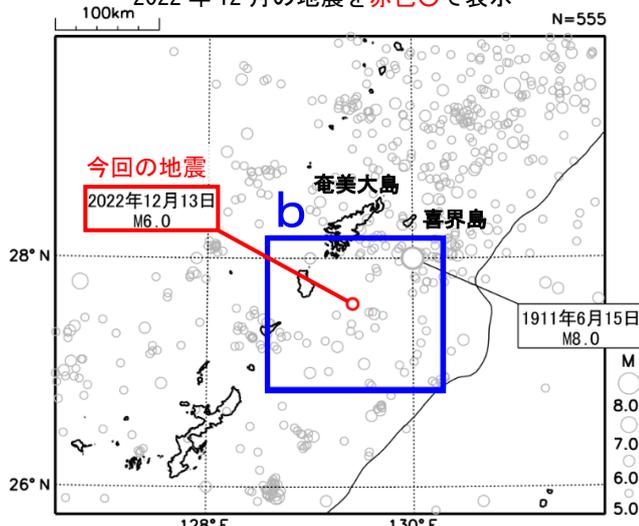
12月13日 奄美大島近海の地震

震央分布図
(1997年10月1日～2022年12月31日、
深さ0～90km、 $M \geq 2.0$)
2022年12月の地震を赤色○で表示
図中の発震機構はCMT解



※の付いた地震の深さはCMT解による。

震央分布図
(1885年1月1日～2022年12月31日、
深さ0～150km、 $M \geq 5.0$)
2022年12月の地震を赤色○で表示



(震源要素は、1885年～1918年は茅野・宇津 (2001)、
宇津 (1982, 1985) による※)

※宇津徳治 (1982) : 日本付近の $M6.0$ 以上の地震および被害地震の表 : 1885年～1980年, 震研彙報, 56, 401-463.

宇津徳治 (1985) : 日本付近の $M6.0$ 以上の地震および被害地震の表 : 1885年～1980年 (訂正と追加), 震研彙報, 60, 639-642.

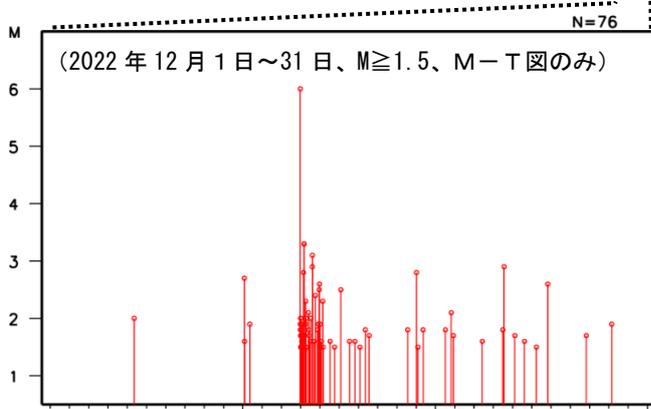
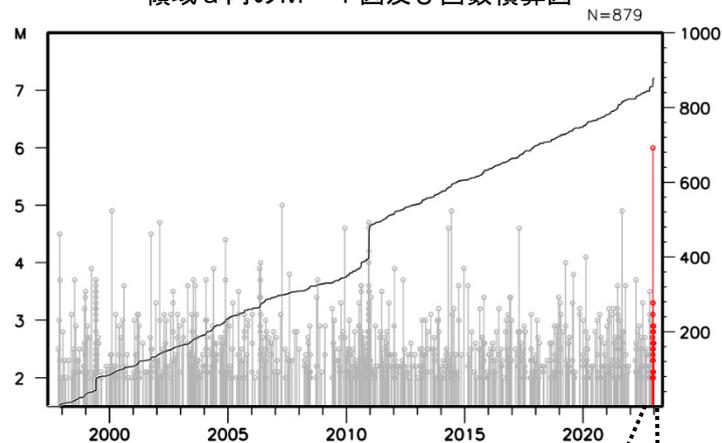
茅野一郎・宇津徳治 (2001) : 日本の主な地震の表, 「地震の事典」第2版, 朝倉書店, 657pp.

2022年12月13日23時25分に奄美大島近海の深さ18km (CMT解による) で $M6.0$ の地震 (最大震度4) が発生した。この地震の発震機構 (CMT解) は、東西方向に圧力軸を持つ型である。

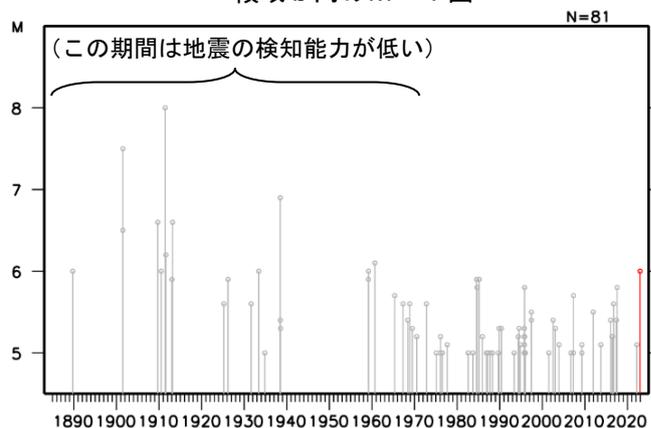
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近 (領域a) では、 $M5$ 程度の地震は時々発生しているが、 $M6.0$ 以上の地震は発生していなかった。

1885年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域b) では、 $M6.0$ 以上の地震が時々発生している。1911年6月15日には $M8.0$ の地震が発生し、死者7人、負傷者26人、住家全壊418棟などの被害が生じた (被害は「日本被害地震総覧」による)。

領域a内のM-T図及び回数積算図

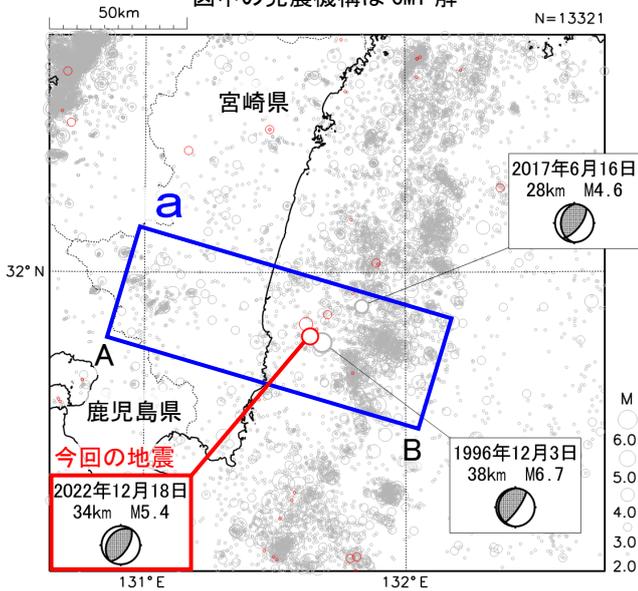


領域b内のM-T図



12月18日 日向灘の地震

震央分布図
(1994年10月1日～2022年12月31日
深さ0～100km、 $M \geq 2.0$)
2022年12月の地震を赤色○で表示
図中の発震機構はCMT解

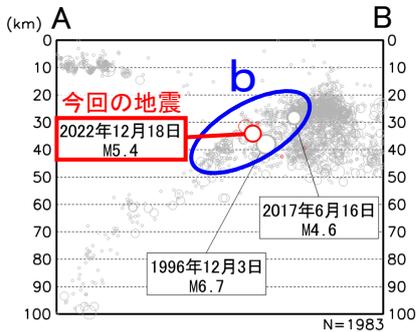


2022年12月18日03時06分に日向灘の深さ34kmでM5.4の地震 (最大震度4) が発生した。この地震は、発震機構 (CMT解) が北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

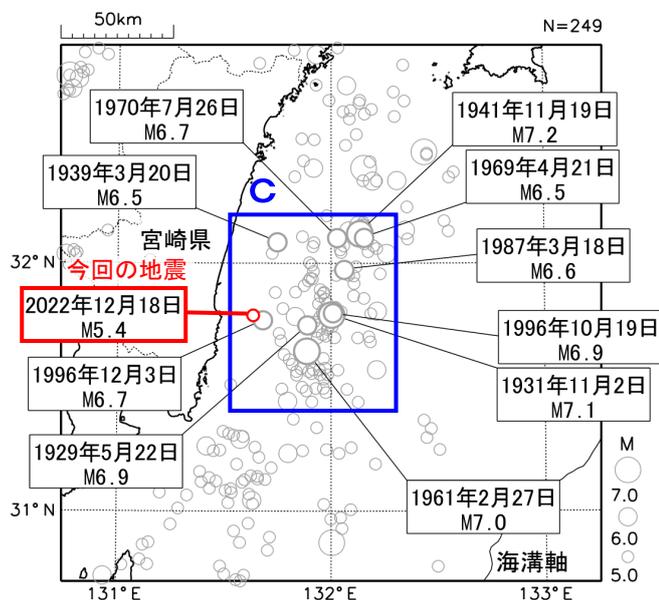
1994年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域b) では、M5.0以上の地震が今回の地震を含め2回発生している。1996年12月3日に発生したM6.7の地震 (最大震度5弱) では、宮崎県の日南市油津、高知県の土佐清水で12cm (平常潮位からの最大の高さ) の津波を観測した。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域c) ではM6.0以上の地震が時々発生している。1931年11月2日に発生したM7.1の地震では、死者1人、負傷者29人などの被害が生じたほか、高知県の室戸岬で85cm (全振幅) の津波を観測した (被害は「日本被害地震総覧」による)。

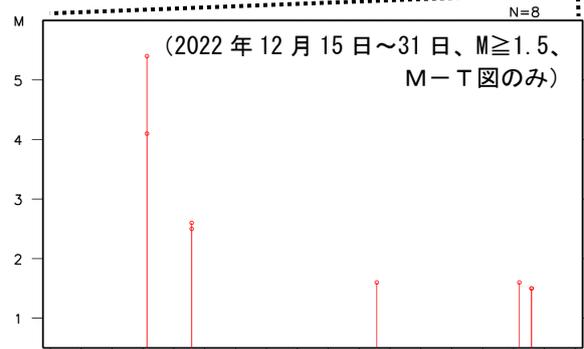
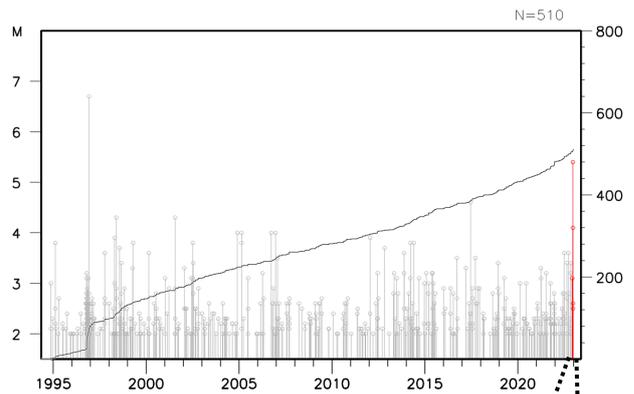
領域a内の断面図 (A-B投影)



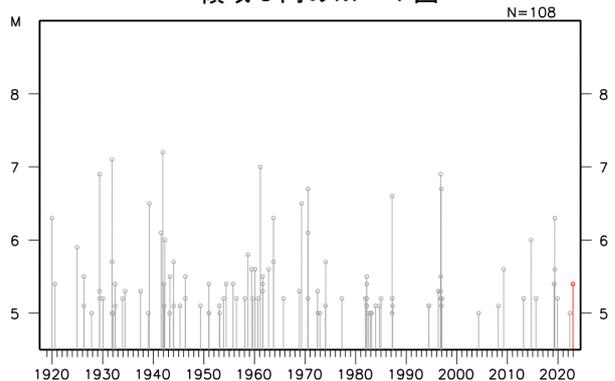
震央分布図
(1919年1月1日～2022年12月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)
今回の地震とM6.5以上の地震に吹き出しを付加



領域b内のM-T図及び回数積算図



領域c内のM-T図



気象庁作成